

第 19 章 嫌いな地元、少しでも生きやすくしたい

福島県・郡山にじいろサークル

廣瀬柚香子さん



実施日：2019年7月29日 聞き手：前川直哉・杉浦郁子

実施場所：郡山市労働福祉会館（郡山市）

【プロフィール】

1996年、福島県矢吹町出身（インタビュー時22歳）。2018年、セクシュアルマイノリティのためのサークル「郡山にじいろサークル」を立ち上げ、現在は友人と2人で運営している。インタビュー実施後、2020年にオンライン開催した「第1回ふくしまレインボーマーチ」実行委員長に就任した。

1. サークル立ち上げまで

◆出身と家族

出身は、福島県西白河郡の矢吹町です。郡山から南に車で45分くらいの所です。

2015年4月に大学進学で東京に行ったのですが、入学後2カ月して、体調を崩し福島に帰ってきました。2016年4月にもう一度東京に戻り、そのまま1年は東京で過ごしたのですが、その翌年、2017年の6月にまた体調を崩して福島に戻ってきて、それ以来、矢吹町の実家で過ごしています。大学は、1年生を2回やって、2年生で中退した形です。

現在は郡山駅前のビルの雑貨屋さんと、福島市にあるNPOで働いています。

実家では、母方の祖父母と、父と母と、一緒に住んでいます。別に住んでいる家族としては、姉と弟がいます。

◆東日本大震災

2011年の東日本大震災は中学2年生の時です。ちょうど3年生が卒業する日の午後に被災しました。

避難はしなかったのですが、うちも結構壊れてしまって……。お米とか肥料を扱う自営業をやっているのですが、蔵は1つ全壊して、自宅は半壊しました。その蔵には、そんなに大事な物が入ってなかったので、特に掃除もせずに壊してしまいました。

通っていた中学校の校舎は、以前から「震度5の地震が来たら全壊する」と言われていて、ちょうど建て替えの途中だったんです。その校舎は、震災でべしょべしょになってしまいました。卒業式の午後で授業がなく、人がいなかったから良かったのですが、新しい校舎

ができる5月ぐらいまでは仮設の校舎などは特につくられず、学校がずっとお休みになっていました。

震度は6ぐらいだったと思うのですが、震度計があった場所は地盤の固い所だったので、私のうちとかはもっと損壊がひどかったです。

避難所には行かず、数日を車で過ごして、その間、実家を整理していきました。今も半分壊れたままですが、きれいに掃除して、現在もそこに住んでいます。

震災が人生を変えたというのは、ないですね。こっちは津波も来なかったですし、原発にも近くないので……。 「にじいろサークル」の活動とのつながりも、あまりないと思います。

◆自身のセクシュアリティ

私のセクシュアリティは、戸籍は女で、性自認がXジェンダーの両性です。性的指向はパンセクシュアルです。

小さい頃から、性別違和とまでは思っていなかったのですが、幼稚園の頃は自分のことを男だと思っていました。でもある日、自分は女なんだと知って、泣いたことがありました。4～5歳ぐらいの頃ですかね。

それからは、自分のことは女だと思って、特に違和感もなく過ごしていたのですが、高校に上がった時に、「私、中学で一番仲が良かった女友達のことを好きだったんだ。恋愛感情を持っていたんだ」と気付いて、そこからだんだん考えるようになります。その時は、自分はバイセクシュアルなんだなと思っていました。

中3の頃から男の子っぽい格好もして、「自分は男でも女でもないし、でも、どちらでもあるような」という、自分でもよく分からない感覚でいました。Xジェンダーという言葉にたどり着いたのは、大学に入って3年目の頃(2017年)です。結構時間がかかりました。

その年の東京レインボープライドのウィークで「にじいろ学校」という団体のホームパーティに参加した時に、自己紹介で「私は、男か女かよく分からないけど、どっちもだと思う」と言ったんです。そしたら「それ、Xジェンダーじゃないの?」と言われて、そこでやっと「なるほど」となったんです。それからは「Xジェンダーの両性」と名乗っています。

私の場合、男の自分と女の自分が、2つ合わさって1つの自分になっているという感じです。戸籍女性で、男の子っぽい格好をしている方って、胸をつぶす方が多いんですけど、私の場合は、自分は女性でもあるし、女性の体に否定的な思いもないので、胸はつぶさないでいます。普段は、どっちにも見える感じを意識した格好をしているのですが、時には、ウィッグをかぶって、お化粧をして、スカートをはいたりもします。その日によって「今日はどっちかを強めに出してみようかな」という感じで生活していますね。

◆周りは何となく分かっていると思う

自分のセクシュアリティについてはっきり伝えているのは、サークルで出会った人と、姉ぐらいです。でも、わりと周りは気付いているというか……。私も何気なく「女の子、かわいいな」とか言ったりするし、ツイッターでも「女扱いされると嫌だ」とか言っているので、一般的な女性ではないというのは、大体の人はたぶん気付いていると思います。祖父母は分

かっていないと思うのですが、大体の人は分かっているんじゃないでしょうか。両親も、こちらからはっきりとは伝えていませんが、何となく気付いていると思います。

昔は父から「髪を短くしないでほしい」と言われたこともあります。でも、そんなにうるさくもなかったです。というのも、姉が昔、男装をしていたんです。セクマイではないのですが、V系が好きな人って結構、異性装をするので。

中学と、公立の方の高校には制服がありました。私は別に嫌じゃなかったです。スカートをはくことにそこまで抵抗はなかったです。でも「男子の制服が着たいな」とも思っていました。その後、転学した私立の学校は服装が自由だったので、どちらも着ていました。ブレザーは変えずに、下はスカートだったり、ハーフパンツに靴下はいたりとか。半々でしたね。先生も周りも、そんなに特別視はしませんでした。何となく分かっていたんじゃないですかね。

◆福島のほうが過ごしやすいとは感じない

高校2年生の時から、双極性障害と、ボーダーラインパーソナリティ障害（境界性パーソナリティ障害）と診断されています。物心ついた頃からちょっと鬱みたいな傾向はあって、高校生の時にそれがひどくなって受診した感じです。

高校も、最初は公立の学校に行っていたのですが、体調が悪くて出席日数が足りなくなって、私立の高校に転入して、そこを卒業しています。

大学は建築がやりたくて、建築デザイン学科に入っていました。ただ、入学してすぐに体調が悪くなり、6月ぐらいに福島に戻ってきました。そこで復学を目指して体調を整えつつアルバイトもして、復学して、しばらく大学に通ったけれど、また体調を崩して……という感じです。建築はすごく好きだったので、大学を辞めると決めてからのほうが体調が悪くなってしまいました。

今は薬を飲んでいて、だいぶコントロールができています。寝られないときがあるなどの症状はありますが、感情の落ち込みはそんなにないので、普通に仕事もできています。福島での仕事も合わせると、週5で働いています。

東京より福島のほうが過ごしやすいとは、あまり感じないですね。高校に行けなかったとか、悪い印象がこっちには強いので。将来、またお金を貯めたら別の県に引っ越して、建築の仕事をしたいなとは考えています。

◆地元だと干渉される

大学に入った年に具合が悪くなった時は、薬の調節がうまくいってなくて、夜になると薬の効果が切れてしまうことがあったんです。その後、一度復学したあとに中退したのは、鬱が強くなったからです。双極性障害だと、フラットに普通に生活できるときと、何でもすごく楽しくなって寝ないときと、鬱のときとがあって、それがちょうど鬱に変わってしまっている。薬でもどうにも、その時は調節できなかったんです。

東京が肌に合わないというわけではなくて、逆に、合っていると思っていました。こっちにいるときのような息苦しさがないですし、周りの目を気にする必要もないので。だから、

東京に戻りたいなという思いは、すごくあります。

地元だと、大して知らない人に干渉されたり、噂されたりすることもあるので、それはすごく嫌です。

私が高校を転学した時、元の高校の友達や親しい人には少し話していましたが、他の人には転学したことを伝えていなかったんですね。で、ある日、新しい私立のほうの制服を着ている時に、駅で中学の同級生の男子にばったり会ってしまって。「えっ？」と尋ねられて、「実は転学したんだ」と話したら、その日のうちにその子がいろんな人にばらしちゃったんです。小学校時代の、特に親しくもなかった先生から電話が来て、「会いましょう」とか、「ご飯に行きませんか」「死なないでください」みたいなことを言われたり。親しくもないのに何だろうな、と思って。

そういうのがすごく嫌で、それもあって地元が嫌いなんですよね。

2. 郡山にじいろサークル

◆立ち上げのきっかけ

郡山市を活動拠点とする、セクシュアルマイノリティのためのサークル「郡山にじいろサークル」を、友人と二人で運営しています。あまり代表と名乗りたくないなので、2人で運営と名乗っています。

サークルの立ち上げは2018年1月です。

私が体調を崩し、大学を辞めて福島に戻ってきて、体調が落ち着いた頃に、矢吹や郡山の駅前を歩いていると、すごくジロジロ見られる経験をしたんですね。見た目が、ちょっと性別がはっきりしない感じで、ピアスもたくさんしているからというものもあると思うのですが。わりとどこでもチラチラ見られて。

あと、こっちに帰って来てから仕事に関わるようになった人たちと話していても、「彼氏いる？」みたいな話ばかりで。「すごく息苦しいな、一緒に話せる人が欲しいな」と思ったんです。

東京にいた頃は、何度かセクマイの集まりに参加していました。TIPSY¹がやっている「ジェンダーフリーX」という、誰でも参加できるイベントに、20歳になって早々に行って。そこで、みんなが自分らしく輝いている姿を見て、すごく感動したんです。「そういう光景が地元でも見られたらな」と思って、サークルを始めました。

TIPSYのイベントでドラァグクイーンの人と仲良くなって、東京にいた頃は、その人がやっているお店にばかり行っていました。今も休みが合えば行っています。セクマイだけじゃなくて色んな人が来るお店で、みんなが自分らしいのが素敵で、好きです。

¹ レズビアンやバイセクシャル女性を主軸とした日本最大の女性限定イベント（公式サイトより）。
<http://tipsy.chu.jp/>

◆運営と「きまりごと」

2017年の10月に、Twitterで、「福島県内でこういうサークルをやろうと思うので、運営に興味がある方はDM（ダイレクトメッセージ）をください」と告知したところ、「運営やります」という人が最初は5人集まったんです。最初から、郡山を拠点にという話はして、それでもいいよという方に集まっていただきました。

集まったときは、意外とそれぞれのセクシュアリティの話にはなりません。20代半ばから後半の方が多くて、私が一番若かったです。特に年齢制限は設けませんでした。

福島市に「よりみち」ができていたのは知っていましたが、見学に行ったのは郡山にじいろサークルの1回目のイベントよりも後です。

最初に、会則というか、「きまりごと」を決めました。ルールが必要かなと思い、他の団体のホームページなどに載っているものを参考にしつつ作りました。ほぼ私一人で作りましたね。福島県内にこだわらず、全国の色んな団体のものを参考にしました。これは今も「郡山にじいろサークル」のツイッターに上げていて、新しくグループLINEに入る人にお知らせしたり、セクシュアリティなど真面目な話をする会では、必ずみんなに一回読んでもらうようにしています。

〈きまりごと〉

他者のセクシュアリティを尊重する心を大切にしましょう。否定や決めつけるような発言は無くしましょう。

自分について話せる範囲で話しましょう。無理をして話す必要はありません。相手から無理に聞き出すこともやめましょう。知ってもらいたいことやシェアしたいことがあったら、発言する人は伝える気持ちを持って、聞く人も話しやすい雰囲気作りを心がけましょう。

個人間のトラブルをサークル内に持ち込まないようにしましょう。

心身の調子が優れない時は、ひと休みしましょう。お待ちしています。

本人の許可なく個人情報を口外・公開してはいけません。

宗教などの勧誘は禁止です。

※追加・変更する場合があります。

郡山にじいろサークル「きまりごと」(同サークル Twitter 2017年10月25日投稿)

◆1回目のイベントと告知

サークルは、みんなで会って、いろいろと交流することを目的に立ち上げました。

1回目のイベントは、2018年1月13日の「だべり会」です。まずは単純に、みんなで話そうという、ざっくりした感じですね。Twitterで告知をしましたが、その頃はまだサークル名も「セクマイサークル in 郡山 (仮)」でした。運営のうち1人から「セクマイという言葉が好きではないので、変えたい」という話があったので、(仮)をつけてやっていました。2回目のイベント(2018年2月25日「セクマイ限定おしゃべり会・昼会」)の告知からは「郡山にじいろサークル」です。

最初の計画では、月1回ぐらいのペースでイベントをやろうとしていました。

私は最初、ファッションショーをやってみたかったです。着たい服を着れていない人もいますし、東京のイベントで見た、みんなが自分らしくして、それがみんな素晴らしいみたいな雰囲気、あの感動をやっぴりまた見たくて。それでファッションショーをやりたいのですが、お金のことなどを考えるとちょっと難しく、まだ実現できていません。他には、映画鑑賞をやりたいとか、夏は旅行に行きたいとか。映画鑑賞は権利関係のことがあるのでできていないんですが、旅行は「青春18きっぷの旅」で実現しました。

1回目のイベントの参加者は、10人ぐらいだったと思います。「よりみち」からもスタッフさんがお2人来ていただきました。

1回目に運営で参加したのは、私と、いま一緒にやっている人と、セクマイという言葉が嫌だと言った人との3人でした。最初は5人だったのですが、この時点で他の人はあまりやる気がなく、メッセージもなく、という状態になっていて、3人でやりました。

告知はツイッターのほか、会場が郡山の中央公民館だったので、そこにもチラシを置いてもらいました。あとは結構、チラシを置いてもらえるよう、お店とかも回りました。私が働いているビルのお洋服屋さんとか……結構断られちゃったのですが、いろんなところを回っているうちに、古着屋さんやライブハウス、スタジオはチラシを置いてくれるということが分かって、その後も何回か置かせてもらっています。断られたのは、セクマイだからというよりは、チラシを置くこと自体が駄目な感じでした。

チラシを持って行くときに、質問された場合は「セクシュアルマイノリティのサークルです」と答えていました。他の人がちょうど来られない日で、ほとんど私一人でお店を回っていたので、最初は結構ドキドキしましたね。

◆毎月1回のイベント

「にじいろサークル」のイベントは、今も月1回のペースで、グループLINEとツイッターで告知しています。その月のイベントをするときには、もう大体次の月のイベントを決めている感じです。一緒に運営をやっている子と、月に大体2~3回は会っているので、そこで「次のイベントをどうするか」という話をしたりします。グループLINE上で、どうするか相談することもあります。

毎回チラシは作りますが、最近は配布はせず、ツイッターに上げるだけです。公民館とかも、その場所を使わない時はチラシを置いてもらえないので……。

最近、会場に困ることがすごく多いです。本当は、周りの目もあまり気にならないように、貸しスペースというか、レンタルハウスみたいな場所があればいいのですが、ないので。それで公共施設を使うとなると、結構、予約で埋まっちゃったりして。だから、なるべく早めにイベントの予定を決めているというのもあります。

ある程度参加者さんが集まらないと部屋代も払えないので、最近はわりと、どこかのカフェに行くとかのほうが多いです。あとはお花見とか、スポッチャとか、クッキングとか、色々ですね。

◆クローゼットをめぐる

会場がどこかを、事前にツイッター上で告知するかどうかは、最近、悩んでいます。以前はこの件について言われたこともなかったですし、私がわりとオープンなほうだということもあって、あまり気にはしていなかったんです。中央公民館の会議室はガラス張り、外から部屋の中が見えるので、そこはさすがにやめようというくらいで。

これまでは「郡山にじいろサークル」だけだと、何のサークルかはっきりとは分からないし大丈夫だろう、ぐらいの軽い気持ちで、会場も事前に公表していたのですが、今後はどうしようかなと悩んでいるところです。先日、運営の子と話して、「飲み会とかのときは場所を書くけど、真面目なお話をするときは、連絡をくれた人にしか場所を伝えないようにしよう」と決めました。

参加者さんの中で、私たちのやり方に熱心にアドバイスくださる方たちがいて、この件についても言われたんですね。「あまりオープンにしすぎない方が良いんじゃないの？」という感じで。その時は、「サークルが存在していること自体にすごく意味があると思うし、チラシを置いたりすることを通じて、セクマイではない人たちにも存在を知ってほしいという気持ちもやっぱり大きいので、完全にクローゼットにするというのも違うと思う」とお答えしました。

オープンにしない方が良いという意見は、若い人じゃなくて、40代の方とか、年上の方が多そうですね。公共施設でやるときは、部屋の入口に「郡山にじいろサークル」と団体名の札が出るんですけど、それも出してほしくないと思っている参加者さんもいるみたいです。若い子は逆に、「にじいろサークルに行ってきた」とツイッターで堂々と書いたりするぐらいなんですけど。

参加者さんの声も色々なので、「何に合わせたらいいんだろう」と悩みますね。中には、「完全にクローゼットにしたら？」という意見もあったのですが、「やっぱり、それは違うよな」となりました。

以前はイベントによって、当事者以外の人に来てもいい日と当事者限定の日に分けていたのですが、最近は特に書かず、質問されれば「誰でも来ていいですよ」と答えています。ただ今度、もっとクローゼットなのも一回やってみようと思っているので、それはセクマイ限定か、セクマイとアライ限定ですかね。

一度クローゼットでやってみようと思ったのは、いろんな人に来てほしいからというのがあります。自分のためにもやっているとはいえ、困っている人の助けになったと実感する

ことも何度かあったので、クローゼットじゃないと来られない人のためにもなれたら、と思っています。

◆郡山を拠点にする意味

参加者さんの年齢層は、日によって異なります。高校生が一気に4人来る日もあれば、40代の友達同士で2人来てくれたりと、最近は特にバラバラですね。私より年上の人のほうが多いです。

地域もバラバラで、県南や会津からも来ます。今のところ、いわきからは来ないですね。いわきの人から、「行きたいけど、距離的に遠いので行けない」という連絡が来たことがあります。

以前、宮城の方が運営に関わってくれていた時期もありました。宮城だと職場の人に見られたりするのではという心配があるから、こっち（郡山）に来てるというお話でした。あえて地元じゃない場所、ということ。

郡山と福島とでも、そういうことはあるかもしれないですね。うちのイベントに参加しているのがばれたら嫌だと思って、福島市の「よりみち」に行った郡山の人もいるらしいです。逆に、「よりみち」に行けなくて、と言ってうちのイベントに来る人もいます。

郡山を拠点にしているのは、交通が便利だからというのがありますが、私がすごく郡山という場所にこだわっているのもあります。お花見の時も「三春の滝桜に行かない？」と言われていたのですが、やっぱり郡山にこだわりたくて。「郡山にセクマイのサークルがあるぞ」というか、存在感というか、それが私には大事なことなんです。

「郡山にセクマイがいる」というのを、表現したいと思っていますね。いるのが当たり前だとみんなが感じるぐらいに。大きな夢ですけど、そうなっていけたらと思っています。当事者の居場所をつくる活動が中心ですけど、それだけでなく当事者以外の人にも、身近にいと知ってほしいです。

郡山の高校にも通ったし、ここで嫌な気持ちになることもあったし、郡山自体が嫌いだった分、逆に、嫌いな場所を少しでも生きやすくしたいな、という思いもあって、あえて郡山にしています。セクマイは東京だけじゃなくて、郡山にも普通にいるよ、と。

◆バンド部と映画部

サークルの中で誰かが「これをやりたい」と言ったら、そこでまた人が集まったりもしています。にじいろサークルの中にバンド部と映画部があるんです。最近はあまり活動できていないのですが。

映画は、私がやりたくて。郡山を舞台にセクマイの映画を作りたいと考えて、話し合いをしています。映画祭にも出したいですし、地元でどこか放送できないかなと思っています。映画作りは、手探りです。カメラは本格的なものではないんですけど、ちょっと高めの家庭用のカメラを買いました。今はストーリー作りをしています。セクマイは地元で普通にいるよ、ということで、リアリティを大事にしようと思っています。

映画部は今、私ともう1人の運営を含めて6人です。サークルの参加者さんの他に、映

画部にだけ参加してくれる人もいます。私が本当にやりたいことなので、ビラ配りとかもしました。サークルの外の人にも呼び掛けたので、セクマイじゃない人も一緒にやっています。セクマイに興味があって、映画部に参加してくれている高校生もいます。高校でドキュメンタリーを撮る部活に所属しているらしいです。その子とはあまり会えてはいませんが、LINE グループには入ってくれています。

私自身は、あと何年かしたら地元を出るのが目標なんですけど、それまでに、ここで今生活している意味とか価値とか、あと、「私がいるんだぞ」という、そういうのが欲しいなと思って。どうやって表すかとなった時に、映画をやってみたいと思ったんです。

バンド部は、私もバンドをやりたいという気持ちがありました。私は元々、高校の時にベースをやっていて、一緒に運営をやっている人がドラムをやっていたので、「バンドやってみようね」と話していたんです。サークルの外で、掲示板とかを使って募集するよりは、内輪でやったほうが早いかなと思い、にじいるサークルの中でバンド部を作りました。ただ、3~4回集まってやったんですけど、メンバーのうち2人の仲が悪くなってしまったので、バンド部の活動は今、止まっちゃっています。

◆絞らず、色々なイベントをやりたい

参加者の人数は毎回バラバラですね。最初のだべり会が一番多かったかな。

私たち運営を入れて8人の時もあれば、今月の「よりみちに行こう」は、参加者さんが2人いるはずだったのですが体調不良で来れなくなって、私ともう1人の運営とで行って、楽しんできました。

参加者さんから「これをやりたい」という要望が、意外と出てこないんです。グループLINEでもよく「やりたいことを挙げてください」と言っているんですけど……。バドミントンをやったのは、参加者さんからの希望だったかな。でも他は、あまり。

たぶん私だけちょっと突拍子もなく、「ファッションショーをやりたい」とか言うんですけど、みんなはもっと現実的に考えているんでしょうね。最初はバンバンみんなの声を聞いたかったのに、全然ですね。そこは結構、理想とのギャップがありました。なので結局、毎月何をやるかは、私ともう1人の運営とで考えています。

逆に参加者さんから、「サークルで、何をやりたいの？」と聞かれることもあります。参加者さんの中に、昔、郡山でセクマイの飲み会を主催していた人がいるんですよ。その人には結構、意見も言われました。「何か一本に絞ったほうがいい」とも言われるんですけど、でも飲み会も、真面目な話も、色んなイベントも、私にはどれも必要だなと。

イベントの中身についても、参加者さんの希望は色々です。真面目なお話しが良い人もいれば、20歳以上の大人だけで内輪の飲み会をやりたいという人もいます。どちらかだけにするのはやっぱり違うと思っているし、最初から「オリジナルな活動をします」と言っているのでも、色々なことを言われても、結局は自分たちで決めていこうと話しています。

◆「サークルに来て良かった」という声

参加者さんから直接、「サークルに来て良かった」という声を聞くこともあります。例え

ば自分のセクシュアリティのことで、もう家族とも縁を切って、友達もいなくて、という人が来た時があるんです。私は「自分らしい」というのをすごく良いことだと思っているので、その人が自分の声を気にしていると聞いた時に、「私はすごく優しい声だなと思って、落ち着きます」と言ったんです。私としては、ただ思っていることを言っただけなんですけど、その言葉で自己肯定感が上がったと言ってもらえたことがありました。

他にも、セクマイの人と話したことすらなくて、自分だけで悩んでいた人から、「色んな人に会えて安心した」と言ってもらえたりしました。

私自身がそうなのかもしれないですけど、やっぱり、ネットだけでなく、直接会いたいですね。ツイッターを見ているだけでも「地元こんな人いるんだ」というのはあるんですけど、直接会う機会は本当にないので。

◆体調との兼ね合い

クリスマスの時期などは仕事の休みがないですし、福島の仕事も重なると、すごく忙しくなります。今は自動車免許の教習にも通っているので、休みが週に1日あるかないかです。そこに映画部と普通のサークルのイベントを入れると、もう休日はありません。

イベントを毎月やるのは、やっぱり忙しいですね。何度か失敗したこともあります。体調が悪くて、運営なのに直前で休んでしまったこともあります。睡眠薬が効き過ぎちゃって、カフェ巡りの時にずっと寝ちゃっていたこともありました。

運営のもう1人に任せたのですが、すごく人見知りをする人なので、後から怒られました。それからは、体調管理をちゃんとしようと気を付けています。

活動をしていることは、主治医にも伝えていきます。

カウンセリングも受けていて、カウンセラーは知識もある方なので、自分のセクシュアリティも含めて全部話しています。主治医には、セクマイのサークルをやっていると伝えた時に、「ごめん、詳しくないんだ」と言われました。女の人も好きになることがあるというだけは、何となく分かっているみたいです。

◆他団体との関係

サークルを立ち上げる前から、福島市に「よりみち」さんが、郡山にも「ダイバーシティこおりやま」さんがいることは知っていました。でも、もうすでにあるから作らなくても良いとは思わなかったですね。福島県にいくつかそういう団体があって、参加者さんがその中から自分に合う場所を見つけるというのも必要だと思うので。

「よりみち」さんは看板もなく、場所もわりと分かりにくい場所にあるので、人目につくのが嫌な人は「よりみち」に行けばいいし、「自分は、ここにいるよ」と主張したい人は、うちに来ればいいしという、役割分担のようなことも少し考えながらやっています。決して仲が悪いわけではなくて、実際に仲が良いですし、ツイッターでもお互いにイベントの宣伝をしあっています。

「ダイバーシティこおりやま」さんは、上川あやさんがいらした講演には行ったのですが、私が土日休みじゃないので他はなかなか行けなくて……。映画を上映した時も行きたかつ

たのですが、参加できませんでした。「ダイバーシティこおりやま」の阿部さん（本冊子にインタビュー掲載）と直接、繋がるようになったのはつい先日で、「ラジオに出てください」という依頼を頂きました。

◆地元になかったから、サークルをつくった

私一人で運営は無理だと最初から思っていたので、「一緒にやってくれる人いませんか」と聞くのが私で、あとは一緒に考えてくれる人ができればやっていけるかな、と考えていました。自分から「何かやろう」というよりは、同じ思いがある人と一緒に、という感じですね。とりあえずツイッターで言うだけ言ってみよう、という感じでした。駄目でもショックを受けたりとか、そこまでの気負いもなく。そしたらわりと反応があったので。そこで集まったのが、地元でセクマイの人と会う初めての機会になりました。

「よりみち」のような居場所が福島市で、少し遠かったという事情もあります。近くにあれば、たぶん、サークルはつくらなかつたです。最初は「郡山にあるだろう」という気持ちで調べたら、なくて。「ないの？ じゃあ、つくっちゃうか」ぐらいの感じです。

東京で、色々な団体があるのを見てきたから余計にかもしれませんね。高校の頃は、性別違和などについてそこまで強く感じていなかったので、地元で団体があるかを探したりは、特にしませんでした。

◆「啓発活動」にはしたくない

パレードとかをやってみたいなど、少しは思うのですが、「実現は難しいぞ」という思いもあります。誰かがやるなら、喜んで乗っかるのですが²。

セクマイについてのフリーペーパーは、作ってみたいと思っています。その話をしたら、「よりみち」のさとうさん（本冊子にインタビュー掲載）もやりたいと言っていました。

ただあまり、いわゆる啓発活動にはしたくないので、フリーペーパーぐらいまでですかね。啓発と言うと、何か違う気がするというか……。

もしサークルの中の誰かがやるとして、私も共感したら手伝いたいとは思っていますが、「平等を訴える」とまでは私は考えていなかったりするんです。それじゃあ楽しくないんじゃないのかな、と。まずはやっぱり楽しくやりたいし、穏やかなほうがいいと思うので。だから、サークルの人がやりだすと言ったら手伝うかもしれないですが、自分たちからはやる予定はないです。

3. 郡山という地域性

◆昔の友達は少し気まずい

私が男っぽくなってきたのは、地元で今までいた期間で言うと、後のほうになるので、や

² この後、2020年の「ふくしまレインボーマーチ」実行委員会の委員長に就任した。第1回ふくしまレインボーマーチは2020年5月17日に福島市内で開催される予定だったが、新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となった。

っぱり小中の友達とかには話せないというか……。友達はいても、大学の友達とかだったら何となく私のこと分かっていたんでしょうけど、昔の友達とかだと「えっ、何があったの？」みたいになるので、余計に孤独感がありました。

今も、昔の友達に会うと少し気まずい感じはあります。でも、まず相手は、見た目で私だと気付かないかもしれません。中学の頃は森ガールで、ふわふわな感じだったんです。

◆外に出る人、地元に残る人

私は小さい頃から、変わってる、個性的だと言われて育ったんですけど、そんなふうにならなくて個性のある人は県外に行ってしまうイメージがあります。だから今、郡山の接客業で働いていると、「まるっきり同じような格好の人ばかりだな」と感じます。それでみんな、あまり刺激も求めていなくて、「地元が好き」みたいな。

郡山と福島とでも、だいぶ違うんです。福島だと駅前に学生さんがいるんですけど、郡山の駅前にいる子たちって、グレてる子たちなんですよ。姉がよく言うんですけど、「地元で楽しく生きてこられて、地元が好きの人って、ちょっとグレてる人たちだよ」と。実際こっちに残っている人って、ちょっとヤンキーだった人が多くて、その中で結婚していたりします。学校時代もカーストの上位にいた人たちなので、そうじゃない人たちは、やっぱり外に出ていっちゃうんじゃないかな、と思います。それもあって、地元は居場所がないな、という感じになりますね。

福島には福大や医大がありますけど、郡山は大学が少ないので、勉強のできる子たちはみんななくなってしまうんです。そこで外に出ていくと、郡山には戻って来ない。最近、就職戦争に巻き込まれたくないから戻ってきた友達はいましたけど、地元に戻っているのはその子ぐらいですね。

福島と郡山は治安の面でもすごく違って、郡山の方が治安が悪いんです。矢吹も似ていて、残っている子はほとんどヤンキーです。

姉は神奈川県のある学校に進学して、保健の先生になりました。横浜では就職できず、今は福島県内で先生をしています。姉も「合わない」と言っていますね。うちのきょうだい、わりとみんな個性が強いので……。弟は学生で、東京でギターを作る学校に行っています。やりたいことをやろうとすると、私たちきょうだいの場合は、ここではなかなかできないんですよ。

地元だと、何かやりたいことがある子は少ないですね。「将来は結婚して、家庭を持ちたい」みたいな人が多いので、話は合わないです。私は結婚より仕事優先というタイプだったので、「なんで仕事の前に結婚の話が出るんだろう」と思っていました。そのぐらい、ギャップがあります。

◆参加者の入れ替わり

メンバーの入れ替わりとしては、地元の大学生だったけど卒業後に就職で東京のほうに行き、サークルを抜けた人がいますね。逆に、もともと都会にいたけど、介護で郡山に戻ってきて、サークルに来てくれた人もいます。

やっぱり外から来た人は、「東京みたいに、セクマイ同士のつながりの場が欲しい」と思っていて、サークルに参加してくれるみたいです。逆にここから都会に出ていく人は、「あっちには別の団体があるから」ということで、もう連絡を取らなくなりますね。

セクマイに限らず若い人は、郡山から出たり、郡山に来たり、入れ替わりがあるのですが、年配の人は、ずっとここで暮らすつもりの人も多いんだと思います。だからこそ、余計にクローゼットにこだわるというのものもあるのかもしれないですね。

◆郡山ならではの課題

郡山の課題の一つは、イベントを開催できる場所が少ないことです。これは本当に、毎回悩んでいます。

ホームパーティのような形なら、もっとクローゼットに、人の目に全くつかない形でできるので、本当はそういうのが理想なのですが、郡山でそういう場所は一軒も見つからないんです。だからやっぱり、公共施設を使うとか、カフェを使うしかなくて、結構毎回困っています。

あと、県内にもっとたくさんセクマイの団体があれば、役割分担というか、もっと自分たちのカラーでやっていけるかもしれないのですが、そんなにないので……。団体がたくさんあれば「うちは完全にクローゼットです」「うちはわりとオープンです」とか、棲み分けができると思うのですが、それができない。だから、いろんな人の思いに答えないといけないので、そこが難しいです。

福島と比べると、郡山は地理的に、他県の団体と関わりづらと思います。「よりみち」の人たちは結構、仙台に行っていますが、郡山からだとなんて仙台は結構遠いんです。東北の真ん中のほうに住んでいけば周りに行くかもしれないですが、郡山の方は、上（北）に行くととなると、なかなかお尻が上がらないです。福島市の方は、「ちょっといいところでお買い物したい」という時に仙台に行くらしいのですが、私たちは大体東京に行きます。安いときはバスで新宿まで片道1,600円なので、仙台へ行くより安い場合もありますから。

◆ゲイ男性の参加者は少ない

ゲイ男性の参加者さんもいますが、あまり多くはないです。郡山にはゲイバーが何軒かあるらしいのですが、「にじいろサークル」とゲイの人たちとは、少し距離がありますね。

「にじいろサークル」の参加者さんは、セクマイの中でも、どちらかというと、戸籍女性の人が多いです。運営スタッフにも戸籍男性はいません。

ゲイの人たちは、ゲイの文化がすでに郡山にはあるようなので、特に私たちと仲良くしようとは思わないのかもしれないです。私たちとしては「仲良くなりたい」と思うのですが、ゲイの人からすると「恋愛対象じゃないし、全然興味ない」みたいな感じなのかもしれません。悩んでいる人はうちのサークルに来たりもしますが、多くのゲイの方は、ゲイ男性以外との出会いは特に望んでいないんじゃないかな、とも思います。

女性のほうが地方に残りやすいというのも、あると思います。勉強のできる男子は外に出してしまうので、男子で残っている人は本当に少ない。ヤンキーぐらいです。

女子は結構、地元の女子大にも行きますね。そこを出て、保育士さんとか、栄養士さんとかになる方もいます。

4. 成果と課題

◆活動の成果

やっぱり継続していることが、一番の成果ですかね。あり続けている、ということが大切なのかなと思っています。

だから、もし参加者さんが来ないことがあっても、すぐに「もうやめよう」とはならないです。「サークルがある」ということ自体にも大きな意味があると思うので、参加者さんが何人集まったかとかではなく、続いている、あり続けているということが、一番の成果だと思っています。

それに加えて、来てくださった方が「来て良かった」と思ってくれて、サークルに来た人同士が友達になったりとか、そういう繋がりをつくることができたというのも、成果だと思います。参加者さんの中には、サークルで仲良くなって、サークルの外でも個人的に遊んでいる人たちもいます。

◆後継者の問題

自分が将来、郡山を離れたら、その時ににじいろサークルはどうなるのか、ということも考えます。もし運営をやる人が増えてくれていたら、私はたまに来れるときに来ようかな、とか。ずっと自分が運営をやろうというこだわりはないです。ただ、やっぱりサークル自体がなくなるのは、悲しいとも思うので。自分が郡山を離れるときに、運営をやる人がいない場合は、イベントの時だけ自分が郡山に来て、開催するかもしれないです。月に1回は無理でも、完全にゼロにはしたくないです。

もし県内に、他に同じような団体ができたら、その時は身を引くのですが。でも今は、まだないので……。

◆活動の課題

ネットで出会った人はやっぱり、個性というか、癖の強い方も結構多いです。内輪同士で少し衝突する人もいますし、参加者さんから「誰々さんが来ないなら行くんですけど」といった話をされることもあります。「外でのゴタゴタは持ち込まないで」と書いているのに、相談されることもあって。「誰かのことを、そんなに毛嫌いしなくてもいいのにな」と思ってしまうこともありますね。その点が、ちょっと課題です。

あとは、クローゼットにしたいという人の声も聞きつつ、どういうイベントをしていくかという、バランスの問題もあります。

もう一つ、よく来てくださる参加者さんで、発達障害の方がいるのですが、やっぱり周りの人との関わりが難しかったりもするんです。その人がいることで「楽しくない」と思ってしまう人も出てきているのですが、でも、排除するのは絶対違うと思うので、そこをどうや

ってくかというのは、結構悩んでいます。いわゆる「空気を読む」ことが苦手で、自分の話ばかりしだして止まらなくなってしまうし、軽い感じで言われたことをすごく重く受け止めて、他の参加者さんを攻撃してしまうこともあります。心は優しくていい方なんですけど「トラブルメーカー」という立ち位置になってしまうんですね。こちらとしても胸がいたくなります。

大体、若い子の方がもめないです。年上の方のほうが結構、癖がある気がします。私だと若過ぎるからだと思うのですが、もう1人の運営のほうが私より3つ年上なので、そちらにばかり連絡が行くらしくて、負担を掛けてしまっています。

「もっと年上の運営の人がいたら」とは考えるんですけど、運営やってくれる人って、なかなか見つからないんですね。

◆これから取り組みたいこと

サークルに来られない人も含めて、困っている人の手助けも、何かできたらと思っています。だからクローゼットの問題については、慎重に対応していきたいです。クローゼットの人もサークルのイベントに来やすいようにしつつ、イベントだけではなくて、フリーペーパーとか、セクマイについて多くの人に知ってもらおう活動もしたいですね。

今、地元のテレビ局から「取材をしたい」という連絡が来ているのですが、顔出しはしないほうが良いのかな、と悩んでいます。私個人として出るのはいいのですが、私の見たくて「セクマイのサークルをやっています」とテレビで話すと、サークルの参加者さんに迷惑が掛からないかが心配です。私と一緒に集団で歩いている時に、テレビを観ていた人に「あの人たちがセクマイか」とばれちゃうかもしれないので……。その辺の難しさがありますね。駅前で働いているので、顔は結構知られているというのもありますし。

同性パートナーシップの認定制度について、自分たちが中心になって積極的に、というわけではないですが、でもそういう制度を作ろうという活動があるなら、協力したいと思います。私はいま、恋人もいないし、ここから外に出ていきたいという気持ちもあるので、自分自身はそこまで必要というわけではないのですが、でも郡山にも、長年付き合っていた同性カップルや、子どもがいる人もいますので、そういう人には必要なんだろうなと思います。だから郡山にも、ニーズはあると思うんです。